

令和6年度中津市総合教育会議議事録

日 時：令和7年2月19日（水）14：00から

場 所：中津市役所3階 大会議室

出席者：（市長部局） 奥塚市長

（教育委員会）中山委員、本田委員、久恒委員、菊池委員、古口教育長

事務局：総務部長、総務課長、総務課主幹

教育部長、教育総務課長、学校教育課長、教育総務課主幹、学校教育課主幹、学校教育課職員

耶馬溪支所長、耶馬溪支所地域振興課長、耶馬溪支所地域振興課主幹

○司会（総務課長）

ただ今から、令和6年度中津市総合教育会議を始めさせていただきます。

初めに、奥塚市長よりごあいさつを申し上げます。市長、よろしくお願い致します。

○奥塚市長

皆さんこんにちは。

今日は総合教育会議ということで、大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

また平素から、中津市の教育の充実・発展のためにご尽力を賜っております教育委員会の委員の皆様、そして職員の皆様にも、心から感謝を申し上げる次第であります。

この教育総合会議は、教育委員会と市町村の首長が協議・調整を行う貴重な機会となるものでございます。

教育委員の皆様の専門的な知見やご意見を伺いながら、より良い教育環境の実現に向けて、共に取り組んでまいりたいと考えております。

これまでもしっかりと連携しながら教育行政を進めているところでございますが、本日のテーマは「NEXT GIGAに向けての取り組みについて」の協議・調整事項でございます。

加えまして、「不登校」や「中津南高等学校耶馬溪校」に関する報告等も予定をしておりますので、情報をお互いに共有したいと思っております。

そしてこの会議が、ともに語り合う良い機会となりますので、実りあるものになりたいと思います。

余分なこともかもしれませんが、NEXT GIGAに向けての取り組みですので、資料はペーパーではなく、これ（iPad）に基づいて行いたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

○司会（総務課長）

それでは、会議次第 3 の協議・調整事項に移ります。

ここからは中津市総合教育会議運営要綱第 3 条の規定に基づき、市長が議長として進めさせていただきます。

市長よろしくお願いいたします。

○奥塚市長

それでは暫時議事の進行役をさせていただきたいと思います。

まず、協議・調整事項の 1 点目ではありますが、「NEXT GIGA に向けての取り組みについて」、事務局から説明をお願いします。

○事務局（学校教育課職員）

皆さんこんにちは。私は中津市教育委員会学校教育課の小野と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

先ほど市長からもありましたように、お手元には学校の子供たちが使っているものと同じ端末、iPad を用意させていただいています。その中に全ての資料が入っています。

文字が多いところもありますので、わからないところは、二本指で広げていただくと大きくなります。また左側にスライドすると次のページにいき、右側にスライドすると前のページに戻りますので、そういった方法で資料を見ていただければと思います。

それでは、座って説明させていただきます。

以降、これまでの取り組み（中津市の ICT 活用教育の推進について、具体的な取組の様子、第 1 期のまとめ）、NEXT GIGA に向けて、について説明。

○奥塚市長

ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がありました。それでは、教育委員の皆様よりご意見やご質問等がありましたら、先にお伺いをしたいと思います。

○中山委員

まず、この総合教育会議の資料作成にあたって、大変丁寧に細かいところを分析して提示してくださっており、この資料作成に携わった方々に厚く御礼申し上げます。

昨年度、学校訪問をさせていただいて、ICT 活用の授業を見させていただきました。その中で、ハプニングやトラブルに対して、先生方の力量をアップしないとアドバイスが難しいなと感じた次第です。

資料の 23 ページから 25 ページに、まとめや課題を提示してくださっておりますが、この ICT 教育を導入する前に比べ、導入してからの成果について再度お尋ねします。

○事務局（学校教育課職員） （↓30：02～）

資料の9ページに具体的な取組の様子がありますが、成果として三つ挙げられます。

まず一つ目は、一斉学習のところにありますように、子供たちが実際に見ることができるということも含めて、先生も色々なことが把握できます。そのため、一斉学習の場面で、子供も教師もお互いの状況がわかるということが一つの成果だと思います。

二つ目が個別学習の部分です。今までは、紙でプリントを出す場合にはみんな同じプリントだったのですが、それが自分の選んだものや、自分に合ったもの、そういう対応ができ、自分に合った表現の仕方というのが、本当に多様になっています。そういう意味でも、個別学習の幅が広がっているということです。

三つ目が、協働学習とグループです。今までは、そこに行って集まらないとできなかったことがオンライン上でできるようになり、例えば、遠くの人と色々なことを共有したり、日頃なかなか話せない友達同士とその端末を通して話したりすることができます。このように、今まで紙でできなかったことができるようになったということが子供たちの立場で大きな成果だと考えております。

○中山委員

ありがとうございました。

○奥塚市長

その他、何でも。本田委員どうぞ。

○本田委員

22ページのiPadスキルアップ研修についてお尋ねしたいです。希望者と書いていますが、希望者は何人ぐらいいらっしゃいますか。

また、ICTを活用した授業改革リーダー育成研修は、どのぐらいの頻度で行っているのかお聞きしたいです。

○事務局（学校教育課職員）

iPadスキルアップ研修は、最初の導入時期はすごく多かったのですが、だんだん皆さんも、iPadの中に入っているアプリなので、わかるようになったら来なくなるんですよね。

でも、今でもやはり10人程度ずつぐらいは1回の講座でいます。年間5回していて、アプリもそれぞれ違うという形で10人ずつぐらいの受講生がいます。また、オンラインでも動画を視聴することもできるので、ここに実際集まらなくて、個別にやっている人もいます。これがまたICTの良さだと思っています。自分に合った時間でできるということです。

それからイノベーター育成研修ですが、初年度は20名ほどいました。本当にこれは希望者の人数です。そして次からは、12～13名が2年続いています。

今は、ICTに関係あることでそれぞれ自分がテーマを決め、年間を通して取り組み、それがどうだったかということをみんなで発表する形にしています。

その成果物は、先ほどの紹介シートと同じように、市の共有フォルダで共有する形をとっています。

○奥塚市長

ありがとうございました。

今お二方のご質問を受けて、首長が聞きたいことを聞いても良いですか。

中山委員が言われたのは、突然ハプニングが起こった時の対応能力が教師の側にあるかという話と、それからもう一つは教える側の方のスキルアップがどうなのかというのが本田委員のご質問だと思います。

我々、こういう環境づくりをする方においても、同じ質問をしたいと思います。

今言った人数がどうなのか、或いはスキルアップが予定通りに図れているのか、今一步先生方にもっと勉強して欲しいなというのか、このICTの親密度を高めて欲しいなと思っているのか、さっき言ったように機械そのものでできるから、対面式じゃなくても十分可能なわけですので。

そういったことについて教育委員会はどのように思っていますか。予定通りだなというのか、もうちょっと尻を叩かないと悪いかなと思っているのか、ちょっと聞きたいと思います。

○事務局（学校教育課職員）

尻を叩かないといけない部分もあります。

やはり世代の差というのがあって、やはり若い先生方は、元々生まれた時からデジタルという環境の中で育ってきたこともあって、すぐ入っていくのですが、一方で、私もどちらかというと紙の方が好きなのですが、紙で育ってきた世代は一旦これを覚えるという作業があって、その作業と授業を作っていくというところ、そこを両輪一緒にやっていかないといけないことで、やはり壁がある人がいるかなと思っています。

だからこのスキルアップ研修というのは、本当に基本の操作、ボタンのところとか、写真の撮り方とか、そういったところからできる講座も入れていて、そういう先生方にはぜひこの講座に来てくださいとか、昨年度は超初心者コースみたいなものを作っていました、それでもなかなか研修に来てくださらない先生方もいらっしゃるの、今後は、その先生方に興味を持ってもらうとか、そういったところへの働きかけも必要になってくるかなと思っています。

○奥塚市長

ありがとうございました。その他、委員さんの間で何か。久恒委員どうぞ。

○久恒委員

今回この資料を頂いて、今、日本にどういう動きがあっているのかなというのを見た時に、単元内自由進度学習が始まっている学校があるというのを拝見したのですが、それについて中津市はどういうふうに思っていらっしゃるのかなと思って。個人的にお伺いするような質問ではないかもしれませんが、そっちの方に動き出しているところもあるっていうのを拝見して、これからの方向性を考えるのであれば、そういうことの支援もやってらっしゃるのかなというのを伺いたい。

○事務局（学校教育課職員）

自由進度学習については、まだ教育委員会で議論をしているわけではありません。

先ほどのイノベーター育成研修でテーマを決めてということがあったのですが、昨年度の受講者で、自由進度学習について研究して、ICTを使いながら、自分が好きなものを自分なりのペースで、最後のゴールに行くまで追究していくというような取り組みを2人の先生方が発表したことで、それがすごく参考になって、一つの単元でもやってみようという先生が少しずつ増えているというのはあると思います。

日本で言うと、総合的な学習の時間が子供たちの課題を追求していくという形なので、一番自由進度学習に当てはまる教科かなと思っています。ただ、国語とか算数とか他の教科はやはり難しいところもあるんですよね。それにふさわしい学習内容というのもあるので、今後こういった形がいいのかを話していきたいなと思います。

○奥塚市長

はい。よろしいですかね。菊地委員どうぞ。

○菊池委員

まず1点目は、キュビナですかね。AIドリルを触らせてもらってすごくいいなと感じていたのですが、実際それで伸びたというのが数字にも出ていますし、平均解答時間もそうですし。

ただ資料を見た感じだと、これを使う時間が意外と少ないので、この時間を少し増やしていただいて、正直僕らが子供の頃の6年間で今の6年間で同じぐらいの内容だったらもったいないかなと思います。

社会に出て、今もAIが進化していて、学校で学ぶ基礎教育ももちろんありますし、そのAIをどううまく使っていくとか、プログラミングを勉強しましょうというのももちろんあるのですが、今はもうそのAIがプログラミングまでし

てくれるという時代になってきていますので、これからこういったことを教育していくかというのは重要になってくるかなと思います。

あとは、授業の比率をどのように計画されているのかなと思っているのと、バッテリーが何とかがって言っていたのですが、バッテリーだけ交換するというのもできるのかなと思ったりしました。予算的にも良いのかなと。

○事務局（学校教育課職員）

AI ドリルの件ですが、1 年ぐらい経って色々なところで利用しています。

一つは資料の右側にある取り組みの中で、市教委が単元テストとして 2 週間に 1 回各学校に配信しています。それを解いてもらいますが、解いたものは全部見られるんですよ。その後、各学校の正答率をもう 1 回学校に戻します。そしてまた 2 週間後にもう 1 回同じ問題を解いてもらって、もう 1 回正答率を戻して、どのぐらい上がったかとか、どこの問題ができてないかというのを一目で見られるように、今取り組みを行っています。

ただ中学校は、単元の終わりだったり、学校の帯時間だったり、そういったところを利用しながら、この単元テストというのを取り組んでいます。

あとは、先生が配信するものもありますし、個人でも自由に解けるようになっていますので、個人で自由に解いている子はもう何千問って解いているお子さんもいます。ですので、学校で決めているものと、自由にやれるものっていうので、そこら辺は問題を解いていく幅が広がってきているかなと思います。

さらに NEXT GIGA で、今度は生成 AI の問題も多分出てくると思います。公務も含めて、子供たちへの活用のさせ方、こんなところもこれから議論していかなければいけない部分かなと思っています。

あともう 1 点、端末のことですが、充電がすぐ無くなるものがあれば、予備機があるので、その予備機をすぐに学校に貸し出すようにしており、そこで交換ができるようになっているので、あまり使えない期間が無いように学校の方には渡しております。

○菊池委員

ありがとうございます。実際、ヤマダ電機とか、そういうお店でバッテリーの本体、それ自体を変えることが多分できるので、もしバッテリーがすぐ切れるようなぐらい劣化しているなら、そういうお店の活用も良いのかなと思いました。

それともう 1 点、最近動画をよくされるじゃないですか。結構僕らも Zoom とかをするのですが、「録画して良いですか。」みたいな、個人情報じゃないですけど、そういったことについて子供たちの許可をもらっているのかどうかというのをちょっと聞きたかったんですけど。

○事務局（学校教育課職員）

今日ここで流すものとか、幾つかあるのですが、子供たちが 3 校で連携して

やっているこの分は、Microsoft の Teams というアプリを使っています。これは自動的に録画にもなるのですが、録画するのは、先生方が全部のグループに入れないので、後で見直すためにやっていて、録画することは子供たちには伝えています。

○奥塚市長

利用状況であったり、その効果だったりの質問が多かったように受けるのですが、今の総合的なことを受けて、教育長としては、現状とこれからのことについてどう考えていますか。

○古口教育長

iPad を活用するというのは、進んでいる学校とそうでない学校、あるいは個人によって差が大きいという部分があります。途中の段階だから仕方がないかなと思うんですけど。

私が今一番危惧しているのは、iPad や DX 化だけではないんですけど、手段と目的が入れ替わっているところが大きいというのが、ややもすると、使うことが目的になって、外からずっと参観していくと、一見もの凄くこのクラスは活用が良いなと感じられる学級もあるんですけど、実際にそれが効果的に子供たちの学習に活かしているかというのは全然別次元というところがものすごく心配な部分があります。

だから、やはり学校の中で DX 化によって、子供たちが、学習が楽しいよとか、或いは深く学べるよとか、こういうできるよとかいうところに絶えず立ち返らないと、使うことだけが、先ほども言いましたように目的化されて、活用の頻度はもの凄く上がっているけども、子供たちは学習に対しての意欲というか、そういう部分とか或いは成果が出てきてないんじゃないかということがあるような気がしますし、これまでも、DX 化だけじゃなくて、他の班学習にしても学び合い学習にしても、これが良いこれが良いという部分を強調しすぎると、形だけを、教職員、特に若い教職員も、そこを気持ち的に焦ってしまって、そういう場をたくさん作るけれど、結局話し合いの中身が高まらない。課題の設定の仕方が低すぎて、子供たちも話し合っても面白くないから、話し合いの中身が、今日帰ったら何して遊ぼうかなとか、昨日テレビが面白かったよとか、別の話し合いに、遊びになってしまう可能性がある。

従って、耐えうる課題を準備するとか、時間で、授業の中で、話し合いの時間を切り上げるとか、要するに色んな部分を、何のためにするのかということを根本のところから絶えず職員研修等でやっていって、何のためにこれを使うのか、そして iPad を使ってより良い勉強ができるというのを、教育委員会からもそういう点を発信していきたいなと考えております。以上であります。

○奥塚市長

この NEXT GIGA に向けての取り組みの中で、今までの経過は先ほど説明があったんだけど、今、私も三つのことを言いたいと思います。

一つは、今教育長が言ったんだけど、まさに有効活用をなされているのかどうか。そして、有効活用の尺度は何なのかっていう話だと思うんですね。だから、みんな使いよるなあ凄いなあというものと、あるものを使わないということは効率が悪いということになると思いますから、一方で今度は使うことが、能力の上昇に或いはその子供の教育にどれだけプラスになっているかというところを、図るというか検証していかなければいけないというのが、まず首長としての教育委員会へのお願いが一つ。

それから、二つ目も先ほど出てきたんだけど、皆さんの質問にもありましたが、受け手の話もあるけどやはりそれを教える、使う方の先生方も含め、受け手もそうだし、供給側の方も、利用能力格差が生じてないかと。そうすると、その格差が、例えば学力の向上格差になったり、或いは現場対応能力の格差になったりする可能性があるんで、そういう意味では、ちょっと苦手だなとか遅くなっているなと思うところの措置を、必ず教育委員会の方で講じて欲しいと思います。上手なというか、それに親密度があってリテラシーの高い人はどんどんどんどん先に進んでいくと思いますので、そこは気にかけておいて欲しいなと思います。これは教育委員会の中で、むしろ教育の側面でできる話で、我々が逆に絡めないというか、そういう場がない話ですので、それをお願いしたいと思います。

三つ目は、まさに今度は我々の方の話で、それに必要な機材だとか道具だとか設備だとか、環境は作れと言っても予算が無いとできないわけでごさいますて、そういう意味での施設の充実というか、設備の拡充を図れるような努力はしたいと思います。

市役所全体が、令和 3 年だったかな。DX 元年って言ったのは。それを宣言してこれから DX 進めていきますという中の一環で、ある意味での学校バージョン、教育委員会バージョンがこれだったわけです。

市役所内部でも、民間から DX に詳しいアドバイザーを採用しながらずっときていて、もちろん設備も増強するんだけど、その利用の仕方をむしろ内部から、内部の職員の能力アップで図ろうというのが今の中津市役所のやり方で、つまりお金をかけずにというか、お金をかけた効果をものすごく余計に出そうというのが我々のある意味欲張ってるんだけど、今までそれが達成できています。

また、DX Award と言って、それぞれの職場が開発したものを年度末に競い合って、職員が投票して、一番、二番、三番を決めて、みんながそれぞれの仕事場でのことで役に立てる。そのプログラムというかそういうのをやりましたので、何か現場にそのものは適用できないかもしれないけれども、この ICT を使った進歩を目指すところのものを整えた以上、やって欲しいと思います。

それで、さっき言った更新の問題はもう非常に深刻な問題という悪いけど、だいたい国がやると、最初だけ、「はい整えてね。」と言って、それから、「はい

しないよ。あんたんとこがしたんやけん。それせんと。」っていうのは大体国の常套なんですよ。それか、或いは最初だけは半分補助するけど、次もやってくれるかなと思っていたら、「次はもうおたくのものだからおたくでやってくださいね。」というふうにならないように、というかやっぱりこの機材設備は相当お金がかかるものですから、その財源確保は一生懸命市長会なりを通じて国にも上げていきますけど、これも一斉に全国的な課題ですから、これは強く要求をしていきたいと思います。

それから、さっき出た AI ドリルの話は、今、小学校 6 年生から中学校 2 年生であります、教育委員会の強い要望がありまして、また明日予算を発表しますが、5 年生から入れるようになります。

ですから、何を言いたかったかという、努力していますよと。機材というか設備については、きっと教育委員会はもっと小さいところから入れて欲しいんだと思います。そこはちょっと財源との差がありますが、これからもそういった意味での先ほど言った施設設備の充実というのは、こちらの方で考えていきたいと思います。

あとと言うならば、どちらかというと学校の個人個人の機材の方が、行政本体の設備よりも先行させた感が実はあって、うちの職員の iPad も来年度にやっと揃うというような具合なので、そういった意味では、教育の方には先に資源を投入した感もあります。共にこの DX は放っておけないので、さっき菊池委員も言われたその AI の部分は特に放っておけないというか、どんどん進めるところはそれを活用していけるのに、一方で何か非常に無駄な時間というか、もったいない時間を潰している可能性もあるんで、そこを導入する以上、やっぱり成果を上げる、或いはそういう成果が見えるなあというところにしっかりと予算を投入していきたいと思います。

それでちょっと一つ質問。AI ドリルだったか、それぞれの個人に応じて、非常に到達度の高い人と、或いはもうそこまで行かずに、どっかで行き詰まって解けない場合に、その人の得意分野・苦手分野を、AI の方が、この人は弱いんだからそこを重点的に勉強できるように何かフィードバックするっていうのがあったよな。それは、現実的にはどういう形で。授業中にやっているの。それとも、それぞれ自らがまずやろうと思わないとできないんだっけ。その指導はどうするんだっけ。

○事務局（学校教育課職員）

授業中は同じ問題をやる人が多いかなと思いますが、単元、一つ区切りがついた時には、それぞれの個に応じた問題を解くということがあります。そして、問題を解けば解くほど蓄積をされて、5 分間で復習ができるという問題があるんですよ。その 5 分間に出る問題が個人によって違うので、そこで子供たちがどこでつまづいているかによって、ある子供は 1 年生に戻ることもあるんですよ。例えば繰り上がりがわかってなければ、1 年生の問題からまず出てくる。

で、途中の約分がわかってなければ、5年生の問題からとかいうような形で、その子に応じたところからスタートするような形になっています。

○奥塚市長

それは家に持って帰ることもできるようにしているんだけど、帰って自らもすることができるわけですか。

○事務局（学校教育課職員）

だから、帰ってから自分に合った問題を解く方が、時間的にもたくさんあるのではないかなと思っています。

○奥塚市長

はい。わかりました。

一番言いたかったのは最後、私が代弁したと思っていい。施設設備については、総務部長もおりますので、聞いていると思いますので、しっかりと予算措置をしていきたいと思います。なかなか一挙にいかないとも少なくとも充実させるし、更新が必要なものは更新をしなければいけないと思いますし、さっき言ったバッテリーの話もあったけど、どんな形で更新するのが良いのかというのも、逆に言うとベンダーというか、業者には騙されないようにやらなきゃいけないなとも思いますし、こっちがわからないばかりになんか言いなりになってどうもこういう機械の類ってなりやすいので、そこをしっかりと見ながら、このDX等の学べる環境を、学校現場でもしっかりと整えていきたいと思っています。

それが今日の私の見解ですけど、なんか特にまだ言い足りないってことがあれば。はい。どうぞ。

○菊池委員

1人に一つ配られると思うのですが、学校側とかそっちからも、アンケートみたいなものを個人の人たちに送ることは可能なのですか。例えば、いじめとかがあって、先生に直接相談しにくいとかいうことも、これでピッとできたりとか、そういったことが可能なのかどうか教えていただけたらなと思います。

○事務局（学校教育課職員）

アンケートをみんなに出して取るっていうことはできます。でも個人的にとというのは、チャットみたいな感じですかね。

○菊池委員

まあアンケートみたいなものです。この子からはこういう返答がきたというときにちゃんと把握できるような。

○事務局（学校教育課職員）

把握できます。はい。これも入れていただいているアプリに、そういう機能があるものがいくつかあります。はい。その場で取れるものもあります。

○奥塚市長

はい。どうぞ。

○中山委員

2月15日の合同新聞に、「大分県の教育の働き方改革進まず 62%時間外労働」という記事がありました。学校に残っての残業時間は減ったものの、持ち帰り業務が増えているという大分県の先生方の実態でしたが、先生方が健康で元気で子供たちに授業し接し、子供たちはやりがいや満足感を感じられる学校生活にするためにも、先生方も、健康管理が十分必要だと思います。先生にゆとりが無いとなかなかそれができませんので、これは教育長をはじめ、教育委員会の方々にお願いですが、先生方の健康管理にも十分配慮するよう、また校長会を通じてよろしくお願いしたいと思います。

○奥塚市長

はい。教育委員会にかかわらず、できればこのDXが残業時間だとかの短縮に繋がると良いなと思いますので、そういう使用方法もあると思います。どうぞよろしくお願いします。

さて、協議調整事項は、他にございませんか。

はい。それでは時間もありますので、次の報告事項に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

○事務局（学校教育課長）

学校教育課の尾家と申します。私からは、中津市の不登校の現状と支援の取り組み等についてご報告いたします。それでは着座にて説明させていただきます。資料は26ページになります。

以降、中津市の不登校児童生徒数の推移、不登校支援の取組、就学支援と長期欠席者（不登校・その他）の関係、について説明。

○奥塚市長

ありがとうございました。参考2のヤングケアラーの状況はどういう意味合いがありますか。

○事務局（学校教育課長）

はい。先ほど経済的支援というところもあって、今年度7月に、県の方がヤングケアラーの調査実施をしました。参考にその状況結果を載せているのですが、

中津市は割合として小学校5・6年から中学3年までが対象になっていて、その部分で小学校の割合は18.3%、中学校は7.5%となっていて、該当者数が書いているのですが、スクールソーシャルワーカーがヤングケアラーとして対応している数というのもこちらで把握していきまして、その部分でいうと、小学校全体では15人、中学校では26人ということで、かなり人数の差があります。そこを子供たちがどう捉えるかということもあって、実際に本当に困っていてこちらが把握してる人数はちょっと乖離があるので、そういうところで参考として載せさせていただいています。

○奥塚市長

ありがとうございました。

不登校の状況、そしてその不登校の子供たちと経済環境の状況を合わす表をお示ししていただいたと思います。今回は、不登校対策とかの議論はまた別の機会に譲りたいと思いますが、とりあえず不登校の状況を見ると、我々がさっき言ったように、不登校って学校だけの問題ではなくて、いろんな形での取り組みが必要な部分だと思いますので、ここで示されている傾向、或いは活動、そういったものを市長部局の方もしっかりと把握して対応していきたいと思います。

決して手を抜いているつもりはありませんので、何とかそういう子供は学校に喜んでいく姿を、また経済的に厳しいところにはそこに手だてがあるような社会というのが大切だと思いますし、そうすることによって、ヤングケアラーの数も減っていくとかそういうのが生まれてこない。或いは、社会的環境とか、地域コミュニティの希薄さがこういうふうに繋がっていくとか、単一の原因だけではなくて、いろんな複合的な要因で不登校になったり、或いはその対処法をただ単にこうすればすぐ解決するという問題ではないのではないかなと思いますので、これは一つのしっかり取り組むべき課題だと思っていますし、市長としてもしっかり取り組んでいきたいと思います。

これは報告ですが、この際このことについて、委員さん等も含めて何か気づく点や申し上げたいことがあれば。はい、本田委員どうぞ。

○本田委員

実際ちょっと子どもの数を見させていただいて、仕事上うちのクリニックに不登校の原因がわからなかったり、腹痛だったり頭痛だったりということであらっしゃる方が、本当このところ増えたなって思っています。朝起きると頭が痛い、お腹が痛い、でも昼からは元気っていう感じなんですよ。ご両親もどうしたら良いかわからずに、病氣じゃないかということでもまず来られる状況で、検査してもそんなに何も無く、お話を聞くしか私はできないのですが、スクールカウンセラーの方とかに相談しましたかって聞いたら、しましたっておっしゃるんですよ。じゃあ、保健室に行かないかとか、支援学級もあるのは知っていますので、行かないのって聞くけど、そこはどうしても本人が行けないと言うんです

よね。私も金谷にあるこれは知らなかったんですけども、こういうのは、スクールカウンセラーの方とかが「行かない？」って言うてくださるのでしょうか。それとも私の方からこういうことを言っても良いのでしょうか、と思って。ちょっとお聞きしたいのですが。

○事務局（学校教育課長）

ふれあい学級については、学校で先生方が、ふれあい学級があるよっていうことをお伝えしたりしているところもあるので、ぜひそういうふうに困っているお子さんとか保護者の方がいらっしゃるのであれば、こういう学級があるよっていうことでお伝えしていただいて、学校とか教育委員会の方に相談してみたらどうっていうことも言うていただければ対応ができるかなと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

で、そこには指導員が2名、スクールカウンセラーが1名で、指導主事が定期的に行っている形なので、その4名の中で、毎日4名がいるわけではなく、2名から3名というところで、交代で支援に当たっています。

○奥塚市長

ありがとうございます。他にございますかね。

それでは、時間の関係もありますので、もう一つ報告事項がありますから、そちらを済ませて、もう1回再度ご質問等を受けたいと思います。はいどうぞ。

○事務局（耶馬溪支所地域振興課主幹）

中津南高等学校耶馬溪校の振興対策としまして、現在、大分県と共同で進めております「全国募集」について説明させていただきます。私、耶馬溪支所地域振興課の中村と申します。どうぞよろしくお願いします。それでは座って説明させていただきます。

以降、耶馬溪校の現状について、「全国募集」の事業概要、今後の予定や期待される効果、について説明。

○奥塚市長

はい。ありがとうございます。

ちょっと補足をしますと、大分県下に、かつてはかなりあった分校、佐伯の蒲江だとか、国東の国見双国高校等、あった高校、いわゆる分校がすべて統廃合になってしまいました。そういった意味で、久住に農業の分校はございますけれども、そういった意味で唯一残っているのは、中津にある南高の耶馬溪校のみとなっています。今まで県の方が学校の統廃合基準というのを作って、定員数の3分の2以下に3年以上なったらもう廃校しようというような、前は大きい方針があって、さっき言ったようなことになったんですけど、今はそれをすぐには適用するようなことではなくて、というのが、中津における耶馬溪、地域にとっての

いわゆる県立高校の存在というのは、やっぱりその地域にとって非常に大きいものであるということが県の方も認識をしていますし、県立高校だから自分のところで決められるんですけど、我々としてはこの中津にそれをぜひ残して、存続をさせたいという強い思いを謙虚に伝える中で、今は理解をいただいて、何とか存続させる試みを続けているというのが、この今回の全国募集がその方策の一つということになれるといいなと思っています。

何とかそのコーディネーターが見つかりそうな雰囲気なのかな。もうなかなか見つからなくて、全国で探してきていたんですけど、そういうことも相まって、特に 7 年度はある意味勝負の年かなと思っていますので、本当は市町村教委の範囲ではないんですけども、地域振興イコール教育の振興というような、中津の地域特性をしっかりと認識したうえで、一生懸命取り組みたいと思いますので、私のところが全国募集になったうえには、ぜひ知っている範囲のネットワークで、来てみないかというような働きかけも行っていたいただければと思います。私からは今の点を補足しておきます。

以上ですけど、何かご質問等はございませんでしょうか。はいどうぞ。

○中山委員

令和 6 年度に入学者が 27 人と、ここ数年で最高人数になっておりますが、これは一つに、古口教育長が、耶馬溪校は先生方が一人ひとりの子供にしっかり寄り添い、学びを保障してくれますよと、各学校の校長に説明してくれたのも一つの要因です。そして、令和 5 年から副校長が変わってから、回覧板を通じて、耶馬溪校の取り組み「ヤッホー」を配布してくださっています。その中に、上毛中学校や吉富中学校出身の子供たちが、自分の母校に、出身中学校に向けた報告ということでこんな言葉を残しております。聞いてください。

「吉富中学校の皆さん、こんにちは。私は耶馬溪校に入学して精神面でかなり成長したと思っています。今は進学コースで頑張っていますが、先生方の手厚いサポートのおかげで、苦戦することなくついていけています。後輩の皆さんも、ここでやさしい先生方と自分の進路を考えながら勉強してみませんか。」

と述べています。それから、緑中出身の方は、はしよりますが、

「耶馬溪校は少人数で良くも悪くも目立ちますが、目標に向かって頑張ることのできる学校です。そんな耶馬溪校を選択して良かったと私は実感しているところです。」

と、通信にありました。ぜひ皆さんも、市長をはじめ、いろいろと協力していただいていますので、応援をしていただけたらと思います。以上です。

○奥塚市長 （↓ 1 : 3 6 : 3 0 ~）

はい。ありがとうございました。

特にようございますか。それでは、今日の総合教育会議はこれを持ちまして終わらせていただきたいと思います。この総合教育会議にかかわらず、またいろん

な意見交換は、もちろん教育委員会とも我々がすでに常時やっておりますけれども、また何か委員の皆さんでお気づきの点があれば、いつでもどうぞお願いしたいと思います。

それでは、事務局にお返ししたいと思います。

○司会（総務課長）

長時間ありがとうございました。これをもちまして、令和 6 年度中津市総合教育会議を終了いたします。皆様、お疲れ様でした。

（ 1 5 : 3 5 終了）

※発言内容については、重複した言葉づかい等を簡潔に整理したうえ、議事録としています。